

「ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学サマースクール参加報告書」

京都大学法学部4年 今村 祥子

① 学習成果 – 前後の変化、国際理解

主な学習は基本的なベトナム語の習得と異文化交流でした。

ベトナム語に関しては、飛躍的な成長があったとは言い難いものの、基本的な単語や日常会話のフレーズを言えるようになりました。短期間で効率良くベトナム語を学習できたことには2つ要因があったと思います。1つ目は、夏休みに1週間、事前研修としてベトナム人の先生がベトナム語教室を開いてくださったことです。ベトナム語の最難点ともいえる声調について事前に勉強をしたことは良かったと思います。2つ目は、講義以外の時間にも現地の学生と毎日食事や遊びにでかけたことで、ベトナム語を実践する機会や間違いを訂正してもらえる機会を多く持つことができたことです。今回の体験を通して、英語の重要性と現地の言語の重要性を実感し、帰国後の外国語の勉強に対するモチベーションがあがりました。

異文化交流に関しては、ベトナムに対する理解が深まったことはもちろん、日本に対しても考えさせられました。犬・猫の肉や虫のサナギ、羽化寸前の卵などを食べるベトナムの文化を肌で感じて、日本に住んでいるときに当たり前だと思っていたことが当たり前ではないことに気づかされました。どこでも道路が整備されていることや交通ルールが存在し守られていることは、日本にいる時は当たり前だと思っていましたが、ベトナムではそうでないことを目の当たりにしました。日本の技術や製品がベトナムにより適した形で伝われば、ベトナムの生活がより快適になるのではと感じることがありました。また、ベトナム人が毎日早朝から仕事や勉強に一生懸命とりくむ様子を見て、日本に帰国して毎日を最大限に活用したいという気持ちが強まりました。

① 海外での経験

海外の大学で学ぶ経験は、アメリカのワシントン大学に次ぎ2回目でしたが、今回の SEND プログラムの特徴は、現地の日本語専攻の学生との交流が多いことでした。そのため、観光地としてのベトナムだけではなく、ベトナムのローカル感をも実感することができました。また、交流した日本語専攻の学生たちは日本に対しての興味関心が大変強く、彼らからの日本に関する多種多様な質問を通じて、私自身が日本について考えさせられました。

2週間のベトナム滞在を通して、衛生面やカスタマーサービスの質などを比較して日本の良さを実感しました。さらには、ベトナム人に日本について褒めてくださる機会が多く、日本を誇りに思いました。

② プログラム内容

主な大学の講義は、ベトナムに関する歴史や社会の講義、ベトナム語講座、そして現地の学生の日本語授業への参加でした。それらに加えて、計2回の実地研修で世界遺産（ドンラム村・チャンアン）の見学がありました。

③ 進路への影響

私は現在学部4年生で半期後に卒業を控えています。進路も決まっています、大学卒業直後の進路に大きく影響を与えることはないかもしれませんが、しかし、将来ビジネスを通して日本と海外の架け

橋になりたいという思いは、より一層深まりました。このサマースクールに参加しようと思った理由は、現在進行形で急成長を遂げている東南アジアの国を現地に足を運んで見ておきたいと考えたからです。今回の経験は、ビジネスを通して世界で活躍するために、間違いなく将来に役に立つことと思います。